

特集Ⅰ

東北で「一番目の巨大米倉庫」 「美米蔵(うまいぞう)」が会津美里町に誕生!!



▲ドローンから撮影した美米蔵(うまいぞう)の全景

会津若松方面から会津美里町へ向かい高田橋を過ぎると、左手の方向に「ふくしまの米」イメージキャラクター「ふつくん、しまちゃん」が壁に描かれた巨大な倉庫が見えてきます。

会津広域連合集出荷施設「美米蔵(うまいぞう)」が会津美里町の会津高田工業団地内に完成し、平成28年9月16日(金)にJA、町関係者ら約80名が出席して竣工式が行われました。

竣工式に先がけて神事が執り行われ岩城晴哉常務理事、猪股孝二県本部長が施主代表で安全祈願の玉串奉奠を行いました。

式典では猪股孝二県本部長が「安定的にふくしまの米の供給ができるJAグループの新たな集出荷拠点となり販売強化を図って行く」とあいさつ。

続いて大橋信夫JA福島五連会長をはじめとする来賓の方々から祝辞、テープカットが行われ「美

米蔵」の完成を祝いました。

「美米蔵」はかねてより担い手から要望の多かった「労力軽減に直結するフレコン集荷」「大手実需者への長期安定販売ニーズ」に応えるとともに、東日本大震災・原発事故の影響で低迷しているJAグループ福島の米穀事業再建に向けた「シンボル」として、会津管内の農家の方々の期待にそえる広域連合集出荷施設を目指し稼働して参ります。

○施設のご案内

「美米蔵」は鉄骨平屋、延べ床面積約7,800平方メートル。低温倉庫5室と検査場が設置され年間2万4,500トン、常時9,767トン(最大16万俵)の米が収容でき、岩手に次いで東北二番目の大きさを誇ります。

施設内、センターの通路(トラックレーン)は長さ約120m、巾15mで雨や雪の日も大型車が倉庫内にそのまま入り、入出庫作業がスムーズに行える倉庫となっています。



▲倉庫内センター通路(トラックレーン)



▲低温倉庫(東側3室、西側2室)



▲テープカットをする大橋信夫JA福島五連会長と来賓の方々

特集Ⅱ

「ふくしまの米」求評懇談会開催

10月14日(金)に東京の東京ステーションホテルで「ふくしまの米」求評懇談会を開催しました。JA全農福島とふくしま米需要拡大推進協議会の共催で、全国の米穀卸17社から19名と、産地側からJAグループの代表と福島県職員合わせて26名、合計で45名が出席して行われました。

懇談会では、産地代表のJA福島五連大橋信夫会長、米穀卸代表として(株)むらせの村瀬慶太郎社長が挨拶した後、全国の米穀情勢と28年産の県産米の生育概況について報告を行い

ました。また、産地の取組として「JA全農福島の28年産米販売計画・販売対策」、「福島県の農林水産物PR対策」を紹介しました。

県産米に対しての意見交換では、北海道や沖縄での県産米の販売における取組状況が紹介されたほか、県産米の品質の良さ、依然として風評被害が根強いことによる全量全袋検査の継続要望などの意見が出されました。

今後は今回の懇談会での意見を生産販売の両面に活かしていけるよう事業を進めていく予定です。



▲懇談会の様子



▲挨拶をする大橋信夫会長



▲猪股本部長を座長に米穀卸との意見交換